

## 巻頭言

## 創立50周年に寄せて ～航空環境政策のこれまでとこれから～\*

東田 晃拓\*\*

昭和47年に羽田空港内に設置された「航空公害調査研究センター」を祖とする「航空環境研究センター」が、この度創立50周年を迎えられたことを、心からお慶び申し上げます。

この50年間、我が国航空は、我が国経済とともに飛躍的な発展を遂げて参りました。特に近年は、我が国の国際競争力の強化、インバウンドをはじめとする観光振興、人口減少が加速する各地域・地方の創生など、我が国成長を支える社会基盤として、国民の高い期待が寄せられております。

これら、増加の一途を辿っていた航空交通量については、新型コロナウイルスの影響により短期的には厳しい状況にありますが、中長期的な視点からは、世界経済のけん引役を担うアジアが勢いを盛り返し、再び航空交通量が増加する可能性は極めて高いと考えています。我が国において安定的な航空ネットワークを構築し、また、我が国の航空ビジネスが国際的にも地域的にも調和して持続するために、航空環境対策は、引き続き重要な政策テーマであります。

これまで我が国では、低騒音機材の運航を促進するための高騒音機材の発着規制、防音工事や移転補償等の周辺環境対策、優先飛行経路方式等の運航方法の改善、夜間時間帯における運航制限等の航空機騒音対策を着実に実施してきたところであります。さらに、航空機自体の低騒音化が進展してきたこともあり、航空機の発着回数が増加する中でも、空港周辺地域への航空機騒音による影響が軽減されてきています。

これらは、運航者(エアライン)・航空機メーカー・研究機関といった産学の取組と規制当局・管制業務提供者・空港管理者といった立場からの国の取組の相互連携、さらには、関係自治体や住民の方々との相互理解の構築によって成り立っているものであります。

航空環境研究センターは創設以来、航空環境を専門的に調査研究する国内唯一の機関として、重要かつ高度な行政課題等に対して、技術面での絶え間ない取組を続けてこられており、その調査・研究成果は、国・自治体・民間空港運営者等の航空・空港関係者が施策を実行するにあたって大きな役割を果たされてきたとともに、国際的にもICAO(国際民間航空機関)への参画や音響工学に関する学術会議への積極的な成果発表を通じて、世界の航空環境の発展に大きく寄与されてきました。

近年では、電子航法研究所(ENRI)及び宇宙航空研究開発機構(JAXA)等の国立研究開発法人や航空局を含めた、航空機騒音に関する技術的な交流・勉強会の場において、航空環境研究センターが中核的な役割を果たしていただいております。特に、研究機関が保有する実験機を用いた航空機騒音の発生メカニズムを検証する研究において、航空環境研究センターが長年培ってきた騒音分析・予測の技術的な知見を持ち合わせることで、更なる航空機騒音の評価・分析の高度化が可能となります。音響工学・航空工学の両方の知見を有する航空環境研究センターの今後の活躍を大いに期待するところであります。

\* Celebrating 50 years of the the airport environment and Aviation Environment Research Center  
～ corporate efforts to aviation environment policy up to the present and to the future～

\*\* 国土交通省航空局 大臣官房参事官(航空戦略)

また、航空環境研究センターの機関誌「空港環境研究」の特別号にあたる「海外空港の環境対策」(2020年)について、敬意を込めて紹介させていただきます。航空環境対策は、基本的には当該国・空港の特性を踏まえ、総合的かつローカル的に展開される性質のものでありますが、航空機の静穏化が世界的に進む中、空港環境の差異を踏まえた上で、諸外国の取組状況を把握することは、非常に有益であります。2020年に発行された同特別号は、世界各国の主要空港の航空機騒音対策について、インターネット上で公表されている既存情報を整理するに留まらず、半数以上の空港を対象として、研究者各位が現地を訪問し、当該空港関係者へのインタビューを実施し、成果物としてまとめられております。我が国の航空環境対策を検討する上で、網羅的で示唆に富んだ非常に価値のある文献の1つであり、是非、規制当局・空港管理者に限らず、運航者・航空機メーカー・研究機関といった航空に携わるあらゆる関係者にも一読いただきたい内容となっております。

今後、航空行政としては、福岡空港の滑走路増設(2025年予定)・成田空港の滑走路増設(2029年予定)など、我が国の空港周辺の環境変化が見込まれます。空港設置・管理者が周辺住民の方々へ丁寧な説明を果たす上で、精度の高い航空機騒音の予測・分析といった技術的な要素がますます重要となってきます。引き続き航空環境研究センターを中核とした関係者の活動に期待しております。

航空環境研究センターが創立50周年という記念すべき節目にあたり、これまでの調査・研究を通じた我が国航空環境の改善・発展への貢献に深く感謝するとともに、今後とも、先見性を持った長期的な視点から調査・研究への取組を継続され、次の50年の航空環境の進展、ひいては未来へと続く人々のより良い暮らしの実現に向けて、その役割を存分に発揮され、ますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。